

東
山
会 会

東 山 会 関 西 支 部 便 り

平成 20 年 (2 0 0 8 年) 度

東
山
会 会



平成 1 9 年度支部総会写真
(写真の参加者氏名は裏面に記載)

名古屋大学工学部機械工学科同窓会
東山会関西支部



平成19年度総会出席者氏

荻原	伊藤	松田	岩田	山田	和田	古澤	土川	白井	斉藤
稔蔵	敏哉	保	恒雄	晃	滋憲	裕	昭	良明	禎夫

深谷
修

清水
徹

名古屋大学
村松直樹氏
教授

清水
義一

関東支部支部長
藤田訓弘氏

安田
幸伸

白木
博明

川口
啓造

目 次

	(頁)
1. 支部長、就任にあたって 支部長 安田 幸伸(昭和39年卒)	1
2. 第45回東山会関西支部総会講演録(H19年11月10日) テーマ:「大学の近況」 名大大学院工学研究科教授 村松 直樹氏(東山会本部来賓)	2
3. 第45回東山会関西支部総会講演概要(H19年11月10日) テーマ:地球温暖化防止に向けた企業の取組み 日立造船(株)事業・製品開発センター技術研究所 清水 徹(S48卒・S50修了)	5
4.(会員寄稿)副支部長退任のご挨拶 会誌担当・囲碁担当・副支部長の23年間を振り返って 前副支部長 青山 信英(昭和32年卒)	7
5.(会員寄稿)近頃の中国ビックリ話 川本 利治(昭和33年卒)	9
6.平成19年度東山会関西支部総会報告 幹事 和田 滋憲(昭和43年卒)	12
7.同好会報告 「囲碁の集い」報告 囲碁担当幹事 古澤 裕(昭和32年卒)	16
8.平成18年度東山会関西支部会計並びに監査報告 会計幹事 山田 晃(昭和33年卒) 監査 安田 幸伸(昭和39年卒)	17
9.編集後記	18
10.平成20年度 東山会関西支部役員名簿	19

1 . 支部長、就任にあたって

支部長 安田 幸伸（昭和 39 年卒）



今年度（2008 年）から、支部長をおおせつかりました安田（S39 年卒）です。全く今まで、東山会関西支部の活動に参加しておりませんでした私が、支部長を受けることは無謀な決断であると、私自身認識しております。しかしながら東山会関西支部も、先輩の皆様方の長期間に亘っての献身的なご努力によって今日がある訳ですので、その伝統を継続し、次世代に引き継ぎしてゆく覚悟をしていますのでよろしく、お願いします。

東山会関東支部は、5 月 12 日（土）に発足総会があり、関西支部（東山会）を代表して清水前支部長が出席し、祝意を表したお礼として、11 月 10 日（土）東山会関西支部総会に東山会関東支部長に出席して頂きました。その折、東山会関西支部総会に対して出席者の顔ぶれ、出席者数について、かなり厳しい、又貴重なご意見を頂きました。勿論、各支部の設立経緯、時期、趣旨等について差がありますので、今後の活動の中で参考にしてゆきたいと思っています。

国立大学の法人化に伴い、大学として、自主経営を目指して同窓会との連携・つながりに（学・官・産）大きな期待をかけ、O・B の大学へのロイヤリティを高める施策が提案されています。その一つが東山に帰る、つまり「ホームカミングディ」という企画です。卒後 44 年、変貌した東山キャンパスにも一度訪問しようと思っています。

東山会関西支部活動も設立趣旨である、関西在住 O・B の親睦を通じて、お互いに横の連携を計りながら、活動を継続していきますので、ご協力をお願いします。

今年度より、清水支部長、青山副支部長は支部長、副支部長を退任し、清水支部長は幹事として会をサポートして頂きます。東山会関西支部を永年に亘ってリードして頂きましたお二人の御労苦に対しまして、この紙面をお借りして、心から感謝申し上げます。

ありがとう、ございました。

2 . 第 45 回東山会関西支部総会講演録

(H19 年 11 月 10 日)

テーマ : 「大学の近況」

講演者 名古屋大学大学院工学研究科
村松 直樹 教授 (東山会本部来賓)



今日のお話の大きな項目として三つぐらい考えています。まずは昨今のトピック的なこと、二番目が産学連携への取り組み、そして最後にその成果である企業との共同研究状況です。二、三番目に重点を置こうかなと思っていますのでよろしくお願ひします。

教授人事のトピック

まず最初は主な人事関係についてご報告いたします。機械工学科は工学部の第系に入ります。機械・航空工学科の学生は年 160 名くらい入ってきますが、学部 2 年から機械システム工学コース、電子機械工学コース、航空宇宙工学コースに分かれて学ぶわけですが、東山会の関係では、学部で機械システム工学コースが、大学院で機械科学分野と機械情報システム工学分野に分かれるわけですが、それらの OB が東山会の会員になります。そこで機械科学分野の中で今年度 (2007 年) 異動のあったおもな人事をご紹介しますと、材料強度・評価学研究グループに東北大学の准教授であった巨 陽 (ジューヤン) 先生が教授として 4 月 1 日付けで赴任されました。もうひとつ、豊橋技術科学大学教授の成瀬一郎先生が高温エネルギー変換工学研究グループの教授として転任されています。またこのグループには 1 月 1 日付けで義家 亮先生という准教授が岐阜大学から転任されています。もう一つの機械情報システム工学分野関係は大きな変動はありませんが、因みに私はこの分野のヒューマンシステム工学研究グループに居ります。

イベントのトピック

つぎにイベント的なものに移ります。6 月の 7 ~ 10 日に第 48 回名大祭が行われました。4 日間の内、初日を除き天候に恵まれずほとんど雨でした。このため名大祭にあわせて行われた研究室公開が例年になく賑わいました。私の研究室も公開したのですが、非常に多くの学生や一般の方の見学がありました。一つトピック的なこととしては、この時期関東地方を中心に “ はしか ” が非常にはやっただんですね。そこで例年には見られないポスターが入口のところに貼られました。「少し異常がある方は入らないでください。」などが受付で貼られバリアーとなっていました。

それから昨今、名古屋市では“ごみの処理”がかなり厳しくて“分別箱”がきちんと設けられたりしていました。

その他のトピック

つぎは生協関係の話題です。少し古い話ですが、従来、工学関係の専門書籍は北部生協の書籍部で扱われていました。これが、昨年（H18年）の5月に生協の建物が理学部北に新築され、この中に理科系の書籍部が集約されました。このため何か専門書が欲しい場合はそこに行かなくてはなりません。北部生協には、食堂は勿論ありますが、雑貨類とか文房具類とかそういうものだけになりました。

大学の建物の改修とか増築工事が相変わらず多く行われています。このためこの夏は古い校舎の壁を削り落とす粉塵が多く、環境が問題です。豊田講堂の改修が進んでいます。全学教育棟も進行中です。工学部関係では3号館の南棟の改修がまさに今、進行中です。私は3号館の北棟の2階におりますので騒音が大きく環境が今一つです。6号館あたりも工事が進んでいます。豊田講堂は昨年12月から今年度いっぱい1年かけて改修増築工事を行っております。このため昨年度の卒業式や今年度の入学式は愛知県の体育館の方で行われました。初改修で傷んだ箇所の修理が大きな目的です。講堂の後ろのシンポジウム会館との間に中庭を作るようでそれは増築にあたるかと思えます。機械系はほとんどが工学部2号館に入っていますが、一部が3号館の北棟にいます。その北棟に私は居りますが、今年の3月に改修が終わりました。今、南棟で改修工事が進んでおり既設建物に外部取り付けによる耐震補強工事が行われています。

産学連携の状況について

つぎに産学連携関係に入ります。産学連携の一環としてのイベント「テクノフェア名大」がこの9月7日に開催されました。地下鉄名古屋大学駅を上がるとすぐ目につくIB館という建物の1階で毎年行われます。基調講演が2件行われますが、そのうちの1つは必ず研究活動に関するものです。それとは別にミニ講演が今年は20件あり、1件当たり20分ですが主には研究内容の紹介です。ミニ講演は昨年までは8件でしたが好評につき20件に増えました。昨年、出展ブースの中で“講演を聞きたいテーマ”を来場者にアンケートして、今年のミニ講演のテーマを決めたようです。今年出展したブースの数は40ほどありました。来場者は企業の方を中心に1000人位だったと聞いております。ちなみに私は研究グループのヒューマンシステム関係の研究成果につき講演しました。

産学官連携のシーズ紹介としては「テクノフェア名大」とは別に、今年、各地で展示会が開催されております。私の研究室（ヒューマンシステム工学研究グル

ープ)が参画した主なイベントをご紹介します。一つは夏に東京ビッグサイトで「マイクロマシン展」が行われました。それから9月に名古屋駅前のミッドランドスクエアで「ロボットビジネスフォーラム」が開催されました、同じ時期に東京国際フォーラムで「イノベーションジャパン」がありました。今月の末には「産学官技術交流フェア」が東京ビッグサイトで行われます。これは国際ロボット展と併設されて行われますのでかなりの来客が見込めるのではないかと考えています。当研究室はいずれにも出展することになっています。

企業との共同研究、知的財産について

大学のシーズをいろいろな機会に紹介しますと企業から共同研究とか受託研究の依頼が来ます。共同研究は例えば昨年の実績ですと415件、(契約)金額で9億5千万円、1件当たりでは230万円ぐらいになります。これは年々増加傾向にあります。金額的に圧倒的に多いのが受託研究ですね。大学側がテーマをもらって請負でやる研究が受託研究ですが、これは件数で372件、金額で一桁多くて42億円、これは1件当たり1100万円ぐらいになります。それから大学発のベンチャー企業、最近では件数が頭打ちのようですが累積で30件位となっています。

もう一つ、大学が独立行政法人化された2004年以降、非常に大きく叫ばれているのが特許関係です。特許の出願件数、例えば2006年では全学で242件(主としては工学部だと思いますが)出願されています。国内出願は件数でフラットな状態です。これに対しPCT国際出願が急増していることが特長かと思えます。国内特許の登録件数については名大がおかげさまでトップに出ています。特許料収入では赤崎先生の特許分が2003年度には4億円位あったんですがその後、基本特許の期限が順次来て、昨年は1億5千万位に落ちています。名大全体では2億円くらいありますので、5千万円くらいは赤崎先生の特許以外でも稼ぐようになってきたこととなります。

企業との研究契約は受託研究契約と共同研究契約に分かれます。共同研究での知財権の取り扱いは、出願人が大学と民間とで共同になるという意味では権利は半々だというのが一つの大きなポイントだと思います。一方、受託研究の場合は基本的には出願・特許権は大学に帰属すると謳っております。勿論、委譲は出来ますが基本的には大学側が特許権を持つ。このあたりが独立法人化されて以降、企業との間でよくもめる理由になっているようです。

以上で大学の近況についてご報告を終わります。どうも有難うございました。

3 . 第 45 回東山会関西支部総会講演概要

(H19 年 11 月 10 日)

テーマ：地球温暖化防止に向けた企業の取組み

日立造船(株)事業・製品開発センター技術研究所

清水 徹(S48 卒・S50 修了)



1 . 地球温暖化防止と日本の現状

地球温暖化が深刻な問題であることは近年特に明らかになってきました。赤道直下でキリマンジャロの山頂を覆っていた氷帽がここ 10 年で殆ど消滅し、北極の氷の面積は過去最低を記録しました。南極で掘削した氷から 40 万年にわたる大気中の CO₂ 濃度変化を分析すると、1800 年頃までは 200ppm ~ 300ppm の間で変化しています。しかし産業革命以降に化石燃料からエネルギーを得るようになってから上昇を始め、現在 380ppm に達しています。ノーベル平和賞受賞を受賞したアル・ゴア氏の映画「不都合な真実」では、大気中の CO₂ 濃度と気温の変化がほぼ相関していることが明らかにされています。地球温暖化が人類の CO₂ 排出の増加に関係していることは否定できない状況です。

一方で、化石燃料の生産量は増加し続けています。しかし近い将来オイルピークを過ぎると、生産コストが上昇してエネルギー価格も上がっていきます。BRICS など新興国の発展で増加するエネルギー需要をどう賄うかも大きな課題です。今後は再生可能なエネルギーの利用を真剣に考えていかなければなりません。

京都議定書では、日本の温室効果ガスを 90 年の排出量(12 億 61 百万t)に対し 2008 年から 2012 年の間に 6%削減することになっていますが、現在も増加していますので、現状から 14%減らさなければいけません。07 年 10 月には産業界が 2000 万トンの削減目標の上積みを決めましたが、まだ 9000 万トン程度足りません。一般家庭や運輸、業務用分野も努力が求められていますが、まだ国民的な意識が高まっているとは言えません。

2 . 日立造船の環境関連事業と開発の状況

私の入社した当時の日立造船は、文字通り造船主体の重工メーカーでしたが、いまは環境とプラント、産業機械、インフラ事業を主体とする企業に変わってきました。

ここでは環境保全と調和した持続的発展可能な社会に役立つことを目指して進めている環境関連事業と開発状況を紹介します。

(1) 廃棄物発電

国内のごみ焼却プラントの約 4 分の1は日立造船が建設した施設で、そのうち発電設備を有するのは 50 箇所以上、総発電能力で 30 万 kW 以上になります。これで約 62 万トン/年の CO₂ 削減効果があり、京都議定書の削減必要量の 0.83% に相当します。廃棄物焼却施設では、外部へ排出しないゼロエミッション、高効率な熱回収、資源循環型社会に貢献する焼却灰の溶融技術などに取り組んでいます。

(2) バイオマス利用技術

バイオマスはもともと大気中の CO₂ 由来のものであり、これを使って得られるエネルギーはカーボンフリーとなります。森林、農場、一般家庭、し尿処理場、下水処理場、各種工場などに適した装置や処理技術がそれぞれ考えられます。これらの技術が普及するかどうかはコストによります。それ自身が経済的に成り立たないと実用化は出来ません。

木質バイオマスのガス化発電ではチップを蒸し焼きにして発生したガスでエンジンを駆動していますが、タールなどの処理が課題です。奈良市の浄化センターには生ごみや汚泥などを発酵させるバイオガス発生装置を納めています。1日 600m³ のガスが得られ、蒸気ボイラーの燃料として利用しています。発生した蒸気は発電に、廃熱は発酵槽の反応促進に使うなどし、残った固形物も有効利用します。京都の実証プラントでは、厨芥、紙、剪定枝などを直径8m、長さ 18m の装置で発酵させ 50kW のガスエンジン発電機を一日 5～8時間稼働させます。

廃食用油からディーゼル燃料を製造する設備を京都市南部クリーンセンターに設置し、京都市のごみ収集車すべてと市バスの一部の燃料として使っています。この燃料は、硫黄酸化物がほとんど含まず黒煙が少ないなどの特徴があり、連続製造システムでの実用化を目指しています。

下水汚泥を脱水乾燥して造粒すると、発熱量が高く石炭ボイラーの補助燃料などに使うことができます。H20年度には宮城県で第一号機が稼働します。

自動車用のガソリンに添加するバイオマスエタノールの製造段階では、エタノール発酵液から水を分離して純粋エタノールにする必要があります。多孔質セラミックの表面にゼオライト膜を加工した分離法は省エネシステムとして優れています。この膜には 4 の隙間が開いており、水分子の径は 3.5 、エタノール分子径は 4.5 ですので、その径の違いを利用して少ないエネルギーで分離することができます。H21年度に北海道で実用プラントが稼働します。

(3) 低温廃熱回収発電

200 以下の排ガスあるいは 85 以下の温排水の多くは、工場からそのまま排出されていますが、さらにエネルギー回収が可能です。アンモニアの蒸発温度は4MPa の圧力下でも 80 で蒸発しますので、低温熱源でもタービンを回して発電することができます。大きな低温廃熱を有する工場では、さらなる省エネを図るための有効な手段といえます。

(4) クリーンエネルギー

自然エネルギーは風力も太陽光もお天気任せで、安定的なエネルギー回収が難しいものです。コンスタントに電気を得るためには二次電池に蓄える方法もありますが、水を電気分解して発生させた水素を蓄え、燃料電池で発電することも可能です。この方式の実証実験を三重県で実施しました。

3 . 結び

日立造船の企業理念は「私達は、技術と誠意で社会に役立つ価値を創造し、豊かな未来に貢献します」と謳っており、その目指す道に地球環境との共生も含まれています。志(こころざし)は高く、しかし地に足をつけて取り組んでいくつもりです。ご清聴ありがとうございました。

(終)

4 .(会 員 寄 稿)

副 支 部 長 退 任 の ご 挨拶

会誌担当・囲碁担当・副支部長の
23 年 間 を 振 り 返 っ て

前副支部長 青山 信英 (昭 和 32 年 卒)



1984 年 (昭 和 59 年) 11 月 の 総 会 で、S.32 年 卒 の 学 年 幹 事 を 大 阪 市 大 助 教 授 の 中 山 君 から バ ト ン タ ッ チ を 受 け、そ の 総 会 及 び そ の 後 の 準 備 委 員 会 で の 検 討 を 踏 ま え て 発 刊 が 決 ま っ た 支 部 会 誌 の 担 当 幹 事 に 指 名 さ れ た こ と か ら、私 の 四 半 世 紀 に 近 い 幹 事 生 活 が ス タ ー ト し ま し た。

機 械 科 と い う 一 見 固 そ う な 学 問 を 学 び な が ら、そ れ ぞ れ の 人 生 軌 跡 か ら 吐 露 さ れ る 文 章 は、必 ず や 同 学 諸 兄 に 裨 益 す る 所 大 で あ ろ う と い う 大 方 の 期 待 に、大 き く 背 く こ と な く、隔 年 発 行 を 4 号 ま で 続 け、無 事 支 部 便 り に 引 き 継 ぎ 出 来 た の は、幸 い で あ っ た と 言 う べ き か も 知 れ ま せ ン。

昭 和 60 年 6 月 発 行 の 「 ひ が し や ま 」 創 刊 号 を ひ も と き ま す と、前 年 11 月 16 日 の 支 部 総 会 に は、44 名 も の 同 窓 生 が 参 集 し た こ と、「関 西 支 部 設 立 前 後 を 語 る」座 談 会 で、出 席 の 村 上 光 清 先 生 (当 時 愛 知 工 大 教 授) か ら、「東 山 会 が 出 来 た の は 終 戦 直 後」と の 説 明 が あ り、関 西 支 部 創 設 は、寄 稿 し て い た だ い た 当 時 の 東 山 会 吉 川 文 岳 会 長 か ら、昭 和 31 年 で あ る と し て い ま す。

本 部 か ら 寄 贈 い た だ い た 「 東 山 会 会 報 」 創 刊 号 (昭 和 25・9・20 発 行) か ら 生 源 寺 順 会 長 の 「 卒 業 生 諸 君 へ 」 と、今 年 亡 く な ら れ た 山 本 敏 男 先 生 の 「 第 4 回 卒 業 生 消 息 」 の 二 文 を 転 載 さ せ て い た だ き ま し た が、生 源 寺 会 長 の 文 中、興 味 深 い 内 容 を 抜 粋 し て み た い と し 思 い ま す。

「 1916 年 に ボ ス ト ン に あ っ た マ サ チ ュ セ ッ ツ 工 科 大 学 が、ボ ス ト ン 郊 外 ケ ン ブ リ ッ チ の 新 築 の 校 舎 に 引 移 っ た 時、多 数 の 卒 業 生 が 祝 典 に 参 加 し た。卒 業 生 は 各 年 次 に 亘 っ て、18 何 年 組 と い う 旗 を か つ い て 新 校 舎 を 行 進 し た と き、相 当 な 老 人 も 元 氣 に 同 年 次 2、3 名 と い う 少 な い も の も あ っ た が、各 年 次 殆 ど 切 れ る こ と な く、引 続 い て 行 進 し た 光 景 が、今 な お 印 象 深 く 残 っ て い る。」「 我 が 卒 業 生 諸 君 も 度 々 母 校 に 帰 っ て 様 子 を み る と い う 事 は 仲 々 出 来 ない で あ ろ う が、

何かの機会につとめて母校に接触し、母校の生長を見守って欲しい。而して自らが社会に於て進んで行く力の源泉の幾分を母校より得られよう。又、母校の発展を助けられるよう希望するのである。」

50年以上前の生源寺会長の考えは、今日、あるいは「ホームカミングデー」に、あるいは「全学同窓会」として実現しているのは、先生の先見の明というべきでしょうか。

囲碁同好会担当幹事を、岐阜へ^{いんぎい}隠棲された後藤氏から引き継ぎ、古澤氏にバトンタッチし、清水支部長就任に伴って御引き受けした副支部長も、支部長交代により、次代に譲ることができたのは健康な証拠であると喜ぶと共に、新しい酒は新しい革袋に入れられる支部発展を、これからも見守って行きたいと思えます。

5 .(会員寄稿)

近頃の中国ビックリ話

川本 利治(昭和33年卒)



いつも中国に関する話で恐縮ですが、相変わらず余り知られていないビックリ話が沢山あります。今回はそれらを紹介しながら最近の中国を眺めてみましょう。

1966年に文化大革命が始まり、76年10月に4人組が逮捕されて文革が終了しました。そして78年12月に鄧小平によって改革開放が始まり、ほぼ同じタイミングで一人っ子政策が始まりました。文革の間、インテリは農村や山間僻地に下放され、教育が徹底的に破壊されましたが、4人組逮捕の直後から教育体制の立て直しが図られ、ほぼ1年後には文革の思想を払拭した大学入試が行なわれています。丁度この時期私は武漢に駐在してプラント建設の指揮をしていたのですが、優秀な通訳の殆んどがこれに合格してごっそり抜けてしまい、頼りない通訳ばかりが残って地団太を踏んだのを思い出します。

最近の中国には“70后世代”“80后世代”という呼び方があります。そもそもは、文革の影響を受けない教育を受けた世代という意味で“70后世代”という言葉ができたのですが、一人っ子政策で極端に甘やかされて育った世代が全く違う気質を持ったため“80后世代”という言葉がその後新しく誕生した次第です。

そして今中国では、男であろうと女であろうと、結婚しようとしなないセレブな若者たちが増えています。その中心は“70后世代”ですから、若者と言っても30代以降で、中国ではこれらを“不婚族”と称しています。改革開放以前の中国では、住宅は結婚して一家を構えたものに国家が支給(貸与)してくれるもので、ステップとしては、先ずお役所に結婚届を出して受理された証明書を勤務する国営企業に提出すると、半年から1年後頃住居が支給され、その段階で親類・友人に披露して結婚生活が始まるという状況でした。ところが改革解放後は、住宅(といっても使用権ですが)は個人がお金を払って購入するものとなり、セレブな若者たちは高収入を得て自分で住宅を購入したため、結婚の大きな目

的の1つがなくなってしまうました。そして結婚するのは「真に生涯を共にするに値するか否か」という心の問題になってきました。しかしそのような相手にはなかなか遭遇できませんから、その結果不婚族の誕生ということになったようです。

しかしながらこれは親の立場から見ると気が気ではないでしょう。2004年9月に北京の公園で自然発生的に始まり、今では上海、南京、杭州、広東、成都、西安、等等中国各地の一定以上の規模の都市では、不婚族の娘を持った父母が、自分の娘の情報をしっかりと書いた紙を抱えて、公園で公開して婿さんを探すという光景が花盛りとなっているそうです。しかし当の娘の方はこの行為に嫌悪感を持ち、なかなか成功に結びつかないようです。また彼女たちに言わせると、改革開放のお蔭で「男尊女卑」の風潮が復活し、漢民族の男はいつでも同時に数名の女の子と付き合っていて、いつもどれが良いかを比べている。そして結婚してからも、こういう“女あさり”的性格は変わらず、婚外情（不倫）をやっているしもう最低！とのことです。

これと若干関係がありそうに思われるものに、同じく2004年頃から自然発生的に誕生した“お妾村”というのがあります。最初は改革開放のモデル地区「深セン」に中国の内陸から出稼ぎに来た田舎の娘たちが、低賃金での過酷な労働から抜け出すために、香港から来たコンテナの運転手（仕事はハードだが抜群の高級取り）の妾になり、同郷のものが集まって住んだのが始まりだそうですが、これも時間を掛けずに全国に広がったようです。

しかしこの辺りまでは、何とか家族のためにお金を稼いで、貧困からの脱出を図りたいという行動原則を感じますが、一人っ子政策のお蔭で“小皇帝”といわれて甘やかされて育った“80后世代”は、全く異なった思考の一群を生み出したようです。特に20代前半は大卒後の就職難も手伝って、卒業すると同時に結婚するというのが流行っており、「閃光のごとく直ぐ結婚する」というわけで“閃婚族”と名付けられました。直ぐ離婚するものが多いので“閃離族”という言葉も誕生し、“閃孕族”という言葉までできました。彼らは小さい頃から甘やかされて育ったので金遣いが荒くまた家事も苦手なため、ある調査によれば、一人っ子同士の既婚家庭では30%がパートのお手伝いさんを雇い、20%が定期的に父母に部屋の掃除をしてもらい、80%が長期間にわたって夫婦どちらかの両親の家で“飯をたかり”、30%が夫婦の汚れた衣服を父母のところで洗濯してもらうというデータが出ています。まさに先が思いやられますね。

もう 1 つの「先が思いやられる」問題に、「公害の垂れ流し」があります。化学工場の汚染廃水垂れ流しは日常茶飯事のこと、折角 O D A で協力して排煙脱硫設備を作ってランニングコストを惜しんで運転したがない企業が多いと聞くともう何をか言わんやです。5,500 キロの旅を終えた黄河が注ぐ中国唯一の内海の渤海が、今死の海になろうとしています。2002 年から 2006 年の 5 年間で、赤潮被害面積が約 100 倍に広がっており、渤海に注ぐ排水口の 9 割が環境基準を超えた汚水を排出しているため、今や一定規模の群れを形成する魚類、貝類、カニ類は全くおらず、産卵場所は 100% 汚染されているとされています。また中国では毎年 80 万 ~ 120 万人の先天性障害児が生まれており、これは新生児総数（約 2000 万人）の 4 ~ 6 % を占めています。そしてこうした先天性障害児の 30 ~ 40 % は出生後数ヶ月以内に死亡し、40 % が障害者として一生を送ることになり、20 ~ 30 % だけが治療を通じて正常に戻る可能性があると言われていると専門家は述べています。またこの“出生欠陥”の発生率は 2001 ~ 2006 年で約 1.4 倍に急上昇しているという調査結果も報じられています。

中国の政治体制は“共産党一党独裁”ですが、毛語録にある有名な「人民の為に服務す」という言葉は何時の間にか「自らの権益の為に服務す」と変わってしまったようで、地方の共産党幹部の汚職体質は日本とは桁が違いますが、これらのビックリ話はまたの機会に譲らせて頂きます。しかし人口が日本の 10 倍で国土面積が 26 倍の隣国の盛衰の影響は、避けては通れませんので、その動きを確りと見据えながら、被害を最小限にする努力を続けざるを得ませんね。

以上

6 . 平成 1 9 年度東山会関西支部総会報告

幹事 和田 滋憲 (昭和43年卒)

第45回目となる関西支部総会は、平成19年11月10日(土)[15時~19時10分]大阪梅田の大阪弥生会館で開催されました。

参加者は当支部会員16名のほか、東山会から名大教授の村松直樹様、東山会関東支部長の藤田訓弘様をご来賓としてお迎えし行われました。以下その概要を記載します。

- 1 . 開催日時 平成19年11月10日(土) 15時~19時10分
- 2 . 場所 大阪弥生会館 生駒の間(講演会、支部総会) 比叡の間(懇親会)
- 3 . 総会概要

(1)出席者

ご来賓 村松 直樹 氏 (名古屋大学大学院 工学研究科 機械理工学専攻
教授 : 東山会本部)
藤田 訓弘 氏 (東山会関東支部支部長)

東山会関西支部会員 16名

(2)総会

講演会	15.00~16.30	(司会 : 荻原幹事 S43年卒)
	・「大学の近況」	村松 直樹氏
	・「地球温暖化防止に向けた企業の取り組み」	清水 徹 氏(S48年卒)
支部総会	16.35~17.00	(司会 : 荻原幹事)
懇親会	17.10~19.10	(司会 : 荻原幹事)

4 . 講演会

(1)講演1「大学の近況」

名古屋大学大学院 教授 村松 直樹氏 (東山会本部)

講演の概要は 2 . 支部総会講演録 参照

(2)講演2「地球温暖化防止に向けた企業の取り組み」

日立造船(株)事業・製品開発センター 技術研究所

所長 清水 徹氏 (S48年卒)

講演の概要は 3 . 支部総会講演概要 参照

5. 支部総会

(1) 支部長挨拶

清水支部長(S31 年卒)

- ・ 本日の総会出席者への謝辞
- ・ 今総会は歴代支部長にもご出席いただき、45 回目を迎えた。
- ・ 藤田関東支部長を来賓として迎えたが、関東支部発足会には平野総長、全学同窓会関東支部丹羽支部長も出席され約 1 割の会員が参加された。
- ・ 全学同窓会関西支部総会は(2008 年)1 月 26 日弥生会館で開催することが決まっている。東山会本部でも 1 月 12 日に名鉄ニューグランドホテルで総会が開かれる。関東支部でも 5 月 10 日に総会が学士会館で行われるとのこと。
- ・ そういう意味ではこれからは相互連携してやっていく時代に入っていくと思うし、産学連携など人のつながりが今後のポイントとなっていくかなと思う。そういう機会を通じて支部の発展を期待する。

(2) 東山会本部代表あいさつ

村松教授

- ・ 会長が所用で代わってご挨拶する。
- ・ 太田先生のHPでは第 1 回目東山会は S17 年に開催された。現在、会員は 4000 名強おられる。当関西支部は 258 名だが、今日出席は約 20 名。医工連携とかの異分野連携で当関西支部においても他分野との交流ができればより活性化するのではないか。若い人がより参加すればよりよいものになると思う。
- ・ 名大の学生は講義の吸収力、授業態度、問題解決能力は優れている。しかし卒研や修論での研究ではとたんにバンザイで知識はあるが応用に弱い。企業の求人では創造性、コミュニケーション、協調性などが重要だが、講義で一番悩むのが創造性の構築だ。資料は真面目に見るがディスカッションになかなかない。若い世代が参加しディスカッションができればこの会がますます活発になると思う。

(3) 関東支部ご挨拶

関東支部長 藤田 訓弘氏 (S40 卒)

- ・ 関東支部初代支部長としての自己紹介
- ・ 今回の関西支部総会出席者名簿を自分より年上が 15 人、下が 4 人にびっくりした。

(4) 会計報告

山田 晃 幹事 (S33 卒)

- ・ 別紙に基づく会計報告
今年度は繰越金減少 (58 万円 56 万円)
- ・ 年会費の納入者は漸減している。経費節減へ努力が必要。

(5) 会計監査報告

安田 幸伸 幹事 (S39 卒)

- ・ 監査の結果報告書どおり認める。 総会承認

(6) 一般報告 深谷 修 幹事 (S34 卒)

- ・役員会報告 3 回開催：主として支部活動の活性化につき議論。
- ・総会出席者 今回はいつも参加される方が病気などで欠席して少ない。
(HPには総会案内を掲載した)

(7) 支部長交代について 清水支部長 (S31 卒)

- ・今年、本部役員は改選期である
- ・清水支部長も東山会理事の中で最高齢・・・若返りを期する
- ・安田幹事が後任を受託、役員も承認したので交代する。

(8) 次期支部長挨拶 安田幹事 (38 卒)

- ・松下電器で電池部門担当、海外出張が多く関西支部の会合には殆どご無沙汰であった・・・一挙に取り戻そうと思い支部長を受託した。
- ・松下電器の中でも同窓が分からなくなっている。若い人に入ってもらいたいと思うが、まだ人について良く分からない。非常に大きな課題を背負った感じがする。
- ・40 数年に亘り続いた会の継承に努力したい。

6. 懇親会

場所：比叡の間

司会：荻原幹事

(1) 乾杯

音頭 和田 滋憲 (S43 卒)

(2) 懇親会

関東支部藤田支部長・・・同窓会の意義と発展について

旧交を温めるということではなく先輩も、後輩も皆が楽しめる会でなければならぬ。

最初は客寄せが是非必要、家族も参加可とする。

関東支部総会は来年 200 名の参加を見込んでいる (世話人 16 名くらい)

関東支部発足総会では H18 卒も来た。若い人も多く来てビジネスの話もあってよい。

清水支部長 (S31 卒)

関西は沈んでいるという印象だがそうではない。

関西と名古屋は距離的に近く広域的には一つという思いでお互いに研鑽していくと良い。

川口啓造氏(S20 卒)

皆が分かりやすいことをゆっくりと話すのが良い。歳をとっているのも良いことだ。

自分は今日の会では最年長者である。健康管理とは自分にとって一番良いことを実行することだ。

今日はほかに同期会があったが、この会は年齢差はあるがいろいろな人の話が聞けるので来た。皆が一言を話すのが良い。

白木博明氏 (S23 卒)

水車の生源寺先生、電気工学の榊先生の話提供

白井良明氏 (S39 卒)

先だって米国の大学の方と話したが日本人は優秀だがオリジナリティーがないと言っていた。中国人もそうで農耕民族はオリジナリティーが無いんだと。

深谷修氏 (S34 卒)

インドネシアで養成した公務員の中小企業診断士の企業診断実習を指導しているが、民間企業の経験がないので、難航をしている。政府の方針として公務員が対象となっているが、民間企業の人材を養成するよう制度を改善する必要がある。

安田次期支部長(S39 卒)

最近の学生は想像力がないという話があったが、世の中便利になりすぎた。私は 27 歳のときインドで現地工場を作ったが、燃料や水を得るため苦労した。まるっきり文化程度の低いところへ入れられて考えることをしないと、創造性を豊かにすることは今の日本では難しい。

(3) 学生歌・寮歌斉唱

(4) 囲碁同好会活動報告 古澤幹事(S32 卒)

昨年 12 月から 11 月まで 6 回開催 (中央電気クラブ)

深谷さん 2 回、青山さん 2 回、鷺田さん 1 回優勝

(5) ゴルフ同好会活動報告 安田幹事(S38 卒)

交野 CC で 10 月 19 日に開催、6 名参加・・安田氏優勝

少なくとも 3 組から 4 組は参加されたい

(6) 閉会の辞 清水支部長(S31 卒)

関西支部、名大と関東支部の発展を祈念して三本締め

7. 同好会報告

「囲碁の集い」報告

囲碁担当幹事 古澤 裕（昭和32年卒）

平成19年8月から平成20年6月まで6回開催し、結果は次の通りです。

開催日	参加者数	優勝者	成績	備考
H.19. 8. 4	6	鷲田3段	3勝1敗	
H.19.10. 6	5	深谷4級	3勝1敗	
H.19.12. 1	5	松田3段	3勝1敗	
H.20. 2. 2	6	青山5段	3勝2敗	
H.20. 4. 5	4	青山5段	3勝0敗	
H.20. 6. 7	4	青山5段	3勝0敗	

現在の参加者は 川口、松田、岩田、青山、鷲田、荻原、深谷、清水、古澤の9名です。

会場は岩田氏の計らいで中央電気倶楽部で偶数月の第一土曜日に開催しています。

ご希望の方は自由に参加下さい。一応昇段、昇級の規約を設けています。



(注) H19年のゴルフ同好会は10月26日、四条畷CCにて行われましたが、競技途中で豪雨のため中止され報告はありません。

8.平成19年度東山会関西支部会計並びに監査報告

会計幹事 山田 晃 (昭和33年卒)
 会計監査 安田 幸伸 (昭和39年卒)

平成19年度東山会関西支部会計報告

期間：平成18年11月11日より平成19年11月9日まで

収 入	金額(円)	支 出	金額(円)
18年11月11日の総会会費 (7000円×20人)	140,000	18年11月11日の総会費用 電気クラブ	149,184
本部援助金	30,000	写 真 代	0
年会費(2000円×61人)	117,220	通 信 費	5,240
振込手数料差引き後の金額		総会案内制作費	51,776
預 金 利 息	914	総会案内発送費	37,500
		会 議 費	12,988
		コピー,事務用品	7,707
当年度の収入合計	288,134	旅 費 他	38,588
		当年度の支出合計	302,983
前年度からの繰越金	582,125	次年度への繰越金	567,276
合 計	870,259	合 計	870,259

以上のとおりご報告いたします。

会計幹事 山田 晃



以上の報告は適正なものと認めます。

会計監査 安田幸伸



9 . 編集後記

支部長に安田幸伸さん (S39 年卒) が就任されました。支部に新たな時代を築いていただきたいと期待します。

国立大学の独立法人化は H16 年に実施されすでに 4 年経過しました。国立大学で成果重点指向の運営が進んでいることが、名大村松直樹教授の講演の後半に感じられました。

今年は世界的に景気の停滞時期に入ったようですが、その原因の一つに原油価格の異常な高騰が挙げられています。一次エネルギーのさらなる削減は地球温暖化対策は勿論、原油高騰対策としても有効となります。今回は日立造船の省エネ技術開発を清水徹さんに紹介していただきました。省エネ技術を一層、高度なものに仕上げたいものだと思います。

青山信英さんのおよそ 4 半世紀に亘る東山会関西支部での幹事のご活躍、ありがとうございました。今後とも関西支部へのご支援をお願いします。

北京五輪の年にあたる今年、各メディアでは中国の陰と陽の報道が盛んに行われましたが、川本さんの寄稿はあまり知られていない中国の一面を伝えています。一読してください。

(W 記)

「関西支部便り」は文書による会員の交流の場です。会員の皆様のご寄稿をお待ちしています。内容や時期は問いません。よろしくお願いいたします。

寄稿される方は当誌次ページに記載の関西支部幹事 和田 滋憲 へ郵送またはメールでお送りください。
